

横浜教育サポートフォーラム「教育サロン・親の会」発足

横浜教育サポートフォーラム「教育サロン」では、今年度から、教職員、保護者、児童生徒等を対象に「親の会（仮称）」を発足させることが予定されておりました。そして、第2回親の会を5月16日（土）に元横浜市教育委員会生徒指導担当課長・元横浜市立老松中学校長の黒川典功先生を講師にお招きし、次のようなテーマで「おしゃべり活動」を行いました。

1、叱ることの大切さ

講師より

子どもに真剣に向き合える親、教師でありたい。

- ・ 子どもを叱ることのできない理由 → 親、教師の責任をとっていない。
- ・ 子どもを庇うことで子どもに恩をきせる親 → 子どもは壁にぶつかり、跳ね返されて、そこから成長することを妨げていることに気づいていない。

今の義務教育は甘えさせすぎ、発達段階に応じての責任の取らせ方

- ・ 子どもを叱るときは「覚悟」が必要だということの認識不足が現実
やったことに対する責任を取らせないと将来の大きな失敗に結びつく

親より

親も教師に厳しい指導をしてもらいたいと思っている

- ・ 先生を「呼び捨て」にすることを容認する。→ 本当に子どもに認められフレンドリーな関係だと思っているのは疑問
- ・ 叱れないのはマスコミの影響 → 学校パッシング、面白、可笑しい記事に
- ・ 叱れないことのできない現場 → 叱れない教師は信用できない。

その子を叱ることで「まわりの子が育つ」価値に気づく大切さ

2、能力別指導のあり方

学力向上のための教育システムのメリットとデメリットの認識

- ・ 数学の授業を三つの能力別グループに分ける → 一番下のグループに入った生徒のやる気は
- ・ 能力別グループの数 → 2つ？ 3つ？ 4つ？

3、高等学校の授業

なんのために高校にきたのか。現実には遊んでいる？

- ・ 聞いていない。うるさい。 → 先生は何も言わない。
- ・ あたりまえの高校入学。 → どこでもよければ入学できることの問題。

4、教育現場の実態

教師が育たないこと。現場の忙しさだけが問題か。

- ・ 親の姿勢 → 新人教師にもベテラン教師と同じことを求める。できないとダメ教師に。昔は親も温かく若い先生を育てていた。
- ・ 職員室の中 → 忙しさから、先輩の指導が希薄になっている現実。



以上が「おしゃべり活動」第2回の概要です。講師の先生を囲み、保護者3名とNPO教育相談員3名がざっくばらんに2時間のおしゃべりを楽しみました。課題の解決を求めるのではなく話すことによって生まれる共有感、明日からがんばろう、子育てを楽しもうという気持ちを大切にしながら「叱ることの大切さを阻害している要因」・・・「今の子どもたちの自分が傷つくのは嫌、失敗を恐れ、恥をかくのが嫌がる生き方」をどのように「チェンジ」させられるかを確認した時間でした。

この会合のあと、横浜教育サポートフォーラム「教育サロン・親の会（仮称）」の運営組織が決定いたしました。

名称	「教育サロン・親の会」		
組織	親の会代表	太田	美恵子
	副代表	中根	たえ
	事務局	大内	祥子

次回・「教育サロン・親の会」の開催については横浜教育サポートフォーラムホームページのテロップ情報をご確認願います。

<http://www.yes-forum.jp/>